

持続可能な未来志向型スポーツクラブの育成

順天堂大学スポーツ健康科学研究科教授 黒須 充

本稿では、総合型地域スポーツクラブ（以下、「総合型クラブ」と略す）の基本方針は、これからも変わらない不変なものであること、ただし、その形態においては、時代に応じて柔軟に変えていく必要があることについて、「持続可能な未来志向型スポーツクラブの育成」というテーマで考えてみたいと思います。

総合型クラブの基本方針

総合型クラブの基本方針（理念や行動指針）は、大きく次の4つに分類できるのではないかと考えています（図1参照）。

（1）生涯スポーツ社会の実現

「学校を卒業し、社会人になったら、テムがクラブ文化の継承には欠かせません。」

（3）地域社会の再生と協働のまちづくり

国のスポーツ基本計画（2012年策定、2017年第2期策定）では、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備することは、地域社会の再生において重要な意義を有し、生涯を通じて住民のスポーツ参画の基盤になるという観点から、総合型クラブを含め、コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進を重点施策の一つとして掲げています（傍点筆者）。地域に「総合型」のクラブをつくることによって、日常生活圏内にある学校や企業、行政、大学、医療機関、自治会や市民活動団体等との連携・協力を進め、市民協働のまちづくりの旗振役としての存在感を高めることにもつながるでしょう。総合型クラブは、いわば、こうした垣根を超えたネットワークをつなぐ触媒であり、連結環であり、架橋（ハブ）の役割を果たしています。

（4）社会的責務の遂行

総合型クラブは、単にスポーツを行

急に運動をしなくなった」とか、「部活を引退したら、その競技をまったくやらなくなった」という人を多く生み出してしまっているのが、我が国の輪切り・分断型スポーツシステム（同一地域内で各グループやチームが、種目や年代別に分かれて独立して活動している地域が多い）の問題点です。

一方、総合型クラブは、子ども、青少年、成人、高齢者という多世代で構成され、各自の興味・関心に合ったスポーツを生涯にわたって継続的に行うことができる場や機会を提供します。性別や年代、障がいの有無や国籍に関係なく、遍く人々が豊かなスポーツ文化を享受することができる生涯スポーツ社会を実現していくことを目指して

う組織ではなく、地域住民が世代を超えて集う、極めて公益性の高いクラブとして、地域社会が抱えるさまざまな社会問題や生活課題の解決にも大きく寄与する力を備えています。それゆえ、総合型クラブは、公的な補助金・助成金を受ける権利、税制上の優遇措置、公的施設をわずかの使用料で利用できる「権利」などが認められている一方、社会のために果たすべき「義務」も有しています。つまり、総合型クラブは、所属する会員の利益のためだけに活動するのではなく、同時に参加しない「第三者」あるいは社会全体に対しても公共の福祉を促進する「社会の公器」としての活動が求められています。コーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティ（CSR）は企業だけではなく、いまやスポーツ組織にとっても重要なテーマとなっています。

総合型クラブを取り巻く社会環境の変化

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展、人々の価値観やライフスタイルの多様化、車社会の浸透や地球環境

います。

（2）人間形成とクラブ文化の継承

スポーツは、フェアプレーの精神や仲間との交流、失敗や挫折を乗り越え、試行錯誤や努力することの大切さを学ぶ貴重な機会として、その教育的効果は極めて高いとされています。その一方で、排他性や上下関係といった伝統が隠れ蓑となつてしまい、スポーツ場面における体罰やしごき、あるいはスポーツ選手の不祥事や指導者によるセクハラやパワハラなども後を絶ちません。

総合型クラブは、青少年期のみならず人生の各段階で、個人が人間的な成長を図り、自分の能力を伸ばすことができる「学びの場」（サードプレイス）を提供します。また、総合型クラブでは、次代を担う青少年会員をボランティアとして積極的にクラブの運営に参画させ、後進の指導に力を入れる取り組みを始めています。つまり、総合型クラブで育った会員がまた、次の世代（親から子、子から孫）にバトンを渡し、クラブ特有の文化構造やシンボルが更新されていく、こうした循環型シス

問題の深刻化など社会の急激な変化が私たちの生活にさまざまな変容をもたらしています。もちろん、こうした社会変化は、総合型クラブに対しても多大な影響を及ぼしています。

例えば、クラブ等の組織には所属せず、一人もしくは、家族や友人、仲間と好きな時に自由に気ままにスポーツを楽しむ未組織的スポーツ人口の増加や民間フィットネスクラブ・ジムの増加、若者のスポーツ離れなど、日本社会における個人主義化の傾向は、総合型クラブに対しても、新しいコンセプトや戦略、組織体制の見直しを迫っています。

競技一辺倒ではなく、スポーツの中に楽しさ、出会い、流行、おしゃべり、交流、美しさの追求、フィットネス、自己表現、過酷な冒険、孤独の回避、退屈のぎ等、新しいスタイルのスポーツを求めるようになってきます。人生100年時代、予防や健康増進を目的とするプログラムに対する需要は、これから益々高まるでしょう。言い換えれば、人々は、従来のスポーツ組織が想定し得なかったスポーツライフス

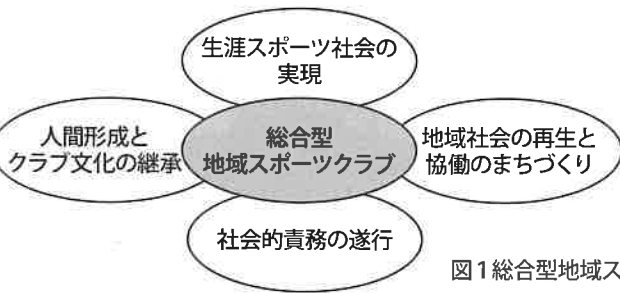


図1 総合型地域スポーツクラブの4つの基本方針（黒須作成,2018）

Community Sport Leaders としての誇り スポーツ推進委員グッズを身につけよう!



ポロシャツはホワイトとネイビーの2色展開

胸ポケットもあり



スポーツ推進委員は一つという意味で日本地図をモチーフにしたロゴデザイン

内側

軽くて動きやすい!

汗をかいてもすぐ乾きます!



サイズ	胸囲	肩幅	着丈
SS	88	42	62
S	94	44	65
M	100	46	68
L	106	48	71
LL	112	50	74
3L	120	53	77
4L	128	56	80
5L	136	59	82

ポロシャツ (男女兼用) 2,900円

[カラー] ホワイト・ネイビー
[素材] ポリエステル100%
(ドライポロシャツ)

ジャンパー (男女兼用) 6,000円

[カラー] シルバー
[素材] ポリエステル100%
(アクアドライ)

サイズ	胸囲	肩幅	着丈
SS	110	46	64
S	115	48	66
M	120	50	70
L	125	52	72
LL	130	54	74
3L	135	56	76
4L	140	58	76

ハンドタオル (ライトイエロー) 600円

[素材] 綿100%
[サイズ] 34×37cm

キラリと光る
スポーツ
推進委員の証

ネクタイ 3,200円

[素材] シルク100%

バッジ 1,500円

ピンブローチ 1,500円

タイ留め 1,500円



マフラータオル (ライトイエロー) 1,000円

[素材] 綿100%
[サイズ] 21×110cm

好評
発売中!

スポーツ推進委員
ハンドブック
1,000円



お申し込み方法

スポーツ推進委員グッズは、(公社)全国スポーツ推進委員連合のホームページ、FAX、郵便などからお申し込みできます。

<http://www.zentaishi.com/>

〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館407号室
FAX 03-3481-2495 TEL 03-3481-2437

*1 学びの場(サードプレイス) / ファーストプレイス=自宅、セカンドプレイス=職場・学校ではない、一個人としてつづることができる場所(居場所)のこと
*2 コーポレート・ソーシャル・レスポンスイビリティ(CSR) / 企業の社会的責任。経済的・法的責任以外の企業の責任として、利害関係者(消費者や投資家など=ステークホルダー)や社会全体に及ぼす影響にまで広げた考え方
*3 ダイバーシティ / もともとはマイノリティーや女性の積極採用、差別のない処遇を実現するためにアメリカで広がった運動が「多様(性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性)な働き方、を受け入れ、広く人材を活用する」という意味で使われるようになった
*4 インクルージョン / 個々人の意見を尊重し、まとめることで、「多様性」とは異なる「一体感」を作り出し、個人のパフォーマンスを引き出すことを目的とした成長戦略

タイトルを実践し始めていけると言えるでしょう。

また、子どもに目を向けた場合、生涯を通じてスポーツを楽しむための素養をつけるためには、なるべく多くのスポーツに親しむことが重要です。一つの競技に専念し、それを究める場合においても、成長期においては、複数のスポーツを経験することが、極めて重要であると言われています。今後は、四季(シーズン)を意識したスポーツイベント、教室などを開催することに、一人でも多くの子どもたちがより一層、たくさんの方々のスポーツに親しむことができる環境づくりを先導していく役割も重要です。

最近、新たな社会像としてダイバーシティやインクルージョンという言葉を目にするのが多くなりましたが、そんなに難しく考える必要はありません。性別、年代、障がいの有無、国籍を問わず、誰もが孤立することなく互いの個性を尊重しながらも緩やかに繋がりをもち、心地よく共存できる社会を目指しています。スポーツの後、「楽しい輪の中」に座って仲間とプレーを

振り返ったり、たわいのない話に花を咲かせたりする、このようなクラブライフが、結果として社会的な差別の境界を取り除いていく可能性を持っています。

いずれにしても、刻々と変わる社会情勢は、総合型クラブにとってチャンスと課題を同時にもたらすこととなります。既成概念や固定観念にとらわれず、発想を転換することにより、日々のクラブ運営の悩みを喜びに変えていきましょう。

市民的公共圏の創出

ハーバマスというドイツの社会学者が「社会」というのは3つのシステムのバランスが取れている時に健全である」と言っています。私たちの社会は、大別すれば、公共セクター(国や地方公共団体)、営利セクター(企業)、市民セクター(NPO・市民団体)の3つのセクターから構成されていますが、現在の日本スポーツ界は、政府や企業に比べて、市民セクターの力はあまりに弱く、また多くの市民が政策決定に参画している状況にはありません。

市民社会(civil society)とは、一人ひとりの市民が主役となり、個々に独立しつつ互いの違いを認め合い、助け合い、プロセス(対話・討議による合意形成)を大切にしながら、社会づくりに参加し創造し、自らも成長していく社会と言えます。

市民自らが、地域住民が主体となつて運営する総合型クラブとは何ぞやというのを議論し、設立の手法を見つけて、トライ&エラーを繰り返しながら、その地域に合ったスポーツ環境を整えていく、こうした「市民的公共圏」を創出することがこれからのスポーツの発展のみならず、地域社会の持続的発展につながるかと考えたい、これが本稿の結論です。全国5万1000人のスポーツ推進委員の皆さんには、こうした地域に開かれた持続可能な未来志向型スポーツクラブ育成の嚆矢になって頂きたいと願っています。

【参考文献】
黒須 充徳著「総合型地域スポーツクラブの時代全3巻 創文企画」2007年・2009年
黒須 充・水上博司編著「スポーツ・コミュニティ総合型地域スポーツクラブの近未来像」創文企画2014年
坂本治也編「市民社会論」理論と実践の最前線 法律文化社、2017年